

平成29年度 さいたま市立東岩槻小学校 学校関係者評価書

さいたま市立東岩槻小学校

学校関係者評価委員長 小堀 久



1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 8名 (学校評議員を兼ねる)
- (2) 実施回数 2回

2 学校関係者評価 (学校関係者評価委員の意見等)

○「児童アンケート」から

- ・ 年を追うごとに、児童の自己評価が向上しているのが成果である。学校は「子どもたちのためにある」ので、児童にとって学校への満足度の大きい学校であることが評価できる。
- ・ 昨年度と比較して、多くの項目で評価が向上し、低下した項目は元々数値が高い項目であることから、教職員のこれまでの努力に敬意を表する。
- ・ 『名札の着用』や『外遊び』について指導した成果が表れている。「青空タイムは楽しい」という項目については、今年度も結果が向上していることが良かった。
- ・ 「授業で分からないことがあると質問している」という項目が他と比べて自己評価が低いことと、『個に応じた指導の工夫』との関連があると考えられるので、個別指導や習熟度別学習などを通して、進んで学習できるようにしていくことが一層求められる。

○「保護者アンケート」から

- ・ 保護者による評価が高く、学校組織としての努力の姿勢がきちんと家庭に伝わり、成果につながっていると思われる。
- ・ 『家庭学習』や『早寝、早起き、朝ごはん』などの習慣づくりについては、家庭との連携を今後も継続させる必要がある。
- ・ 『通知票配付における工夫』を通して、保護者が今後の勉強の仕方について親子で話し合い、児童の学習意欲の向上につなげていくことが求められる。

○「教職員の自己評価」から

- ・ 全般的に高い評価を確保しているので、この状態を維持できる工夫に期待する。
- ・ 東岩槻小学校は、アンケート結果から問題点を的確に把握し、改善策を定め、実践していく力が強いと感じる。具体的な改善策の中でも特に、小・中一貫教育を視点とした『スタンダード』の実践により、児童の確実な力となるよう期待する。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・ 校内の教育課程編成委員会等を活用して、改善すべき点は具体的に改善策を講じ、実践につなげていくようにする。
- ・ 指導方法の工夫改善について、研修推進委員会を活用して、個別指導や習熟度別学習などの仕方を検討し、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 基本的な生活習慣づくりについて、家庭との連携を深めるよう、次年度に向けて、「いきいき生活カード」の継続及び「家庭学習スタンダード」の改善に努める。
- ・ 通知票の活用について、通知票検討委員会を中心に、学期末の懇談会等における保護者への説明を検討、工夫する。

さいたま市立東岩槻小学校長 野津 吉宏



※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。